

冠婚葬祭という愛溢れるイベントを 自ら人生に足していただき、 さらに人生を謳歌していただきたい。

代表取締役藤村和弘氏から「寄稿をいただきましたので、原文を尊重しながら一部
わかりやすくして紹介いたします。家族、礼儀、冠婚葬祭など、今、改めて見つめ直
したいことへの思いを語っていただいています。」

「テーマパークや絶景、予
約の取れない店、家族旅行に
連れて行ってあげて、アメリ
ジンのな経験体験をプレ
ゼントするコトも大切な愛
情表現ではあります。バグ
バック等のモノのプレゼント
と同じようなもので、値段
がわかる、高ければ高い程
ありがたい、刺激物の愛情
のグループだと思っんです」

「でも、冠婚葬祭等、その
人の立場や存在意義を明確
にして、プライズする事で、
大切にされてる事や、自分
に自信を付けてあげたり
(誕生日や成人式、結婚式、
結婚記念日等、法事や四十
九日も命日を大切にすること

もする事は、刺激的では無
いけれど、ジワーッと温まる
愛だと思っんです」
「巷では、亡くなられた方
の遺言で『御葬式は家族葬
で』とか『小さくて良いか
ら』と言つてたから、とよく
聞きますが、そもそも家族
葬がしたいのでしょうか？そ
もそも小さい御葬式が希望
なのでしょうか？多分、不甲
斐ない僕達残された者の負
担を憂いて言ってるだけだ
と思います。そりゃ親はずっ
と僕達の事を子供だとか、
心配して旅立つのですから。
アラブの富豪でも子供は心
配です。僕達は本質を見聞
違えて無いでしょうか？」

「大好きな家族や仲間
と色々旅行に行ったり、欲
しかったモノを買ったり、趣
味を楽しんだりする事は
とても大切です。死ぬ時
に、挑戦した事を悔やむこ
とはないらしいが、挑戦し
なかつた事はめっちゃめっちゃ
悔むらしいです。和装家の
方々は人生を豊かに生き
てられる方々だと思っんです
が、今もう一度、冠婚葬祭と
言う愛溢れるイベントを、
自ら人生に足していただき
人生を謳歌していただき
たいと思っんです」

「ただ冠婚葬祭は人生の
中で全く同じイベントはあ
りません、同じでも立場が
違つたりします。つまり、毎
回初めてが多く、イベントを
無事成功するために不安に
なつたりする事もあるで
しょう。ですから、僕達はお
客様がそのイベントに集中
していただける様に、虎の威
を借りるではないですが、
僕達の創るキモノは虎の威
です。妥協はしません。お
客様が堂々と胸を張つて戴
ける商品を作らないと、私
達の目的は達成出来ないの
です。お洒落キモノとは少
し感覚が違うかも知れま
せんがそんな気概で洒落つ
気も無い職人達は工房に向
かうのです。お客様の今日
は良かったねの為に」



黒紋付で家族の絆の大切さを表現した
オリジナルのショート動画です。
(YouTubeに移動します)

株式会社 **フジマサ** (慶應年間創業)
京都市下京区西洞院通仏光寺上る綾西洞院町743
tel.075-352-7678
<http://www.kagigen.jp>



日置新理事から挨拶をいただきました。

この度「NPO法人きものを世界遺
産にするための全国会議」の理事とし
て選任され就任する運びとなりまし
た。重責に身の引き締まる思いです。

日本の伝統衣装である着物の織、染
柄の技術の素晴らしさは日本だけで
なく、海外でも高い評価を得ています。
着物が世界遺産になるよう、微力なが
ら他の理事の方のご指導を頂きなが
ら、誠心誠意尽くして参る所存です。

また、WAKATOMO会(和装家友
達の会)の会長をお引き受けしてまだ
日も浅く、試行錯誤を繰り返している
最中ですが、「きものを世界遺産に！」
をキャッチフレーズに、皆様と一緒に楽
しみながら広めて行けるように進めて
参りたいと思います。どうぞ皆様のご
協力、ご支援を賜りますよう宜しく
お願い申し上げます。 日置敬子

NPO理事就任ありがとうございます。何度も固辞され、正直、
諦めかけていましたが、最終的に快くお引き受けいただき感謝申
し上げます。和装家の皆様の中でも、特に人望の厚いお一人であ
る日置様に理事に就任いただいたことで、NPOと和装家の新た
な大きな架け橋になっていただけると期待しています。しかしなが
ら、あまりご無理はさせませんのでご安心ください。
代表理事 吉田重久

日置さんは、WAKATOMO会(和装家友達の会)の会長もお引
き受けいただいています。今夏にはランチ会を自主的に開催し
ていただきました。



「黒」をして「紋」を身につける誇り きものを自分で着られる喜びがさらに広がります。

黒紋付は性別を問わず、正礼装(第一礼装)のきものとして最も格式
の高いものとされ、結婚式や入卒式などハレの日に着る縁起もので
す。大切なセレモニーに参列する際、自分の気持ちを伝える象徴と
いえるでしょう。きものを自分で着ることができる和装家の皆さまに
は、ぜひお挑戦いただきたいと考えます。

人生の節目となる「ハレの日」に感謝の気持ちを伝え、 代々の繁栄を願うための「黒」

初参り、七五三、十三参り、成人式、結婚式などのセレモニーも、成長を祝い、代々の繁栄を
願うと共に、家族・親戚の関係を円滑にする役目も果たしています。大切なこれらの節目に
黒紋付を着ることで、厳かな気持ちになり、日本人であることの誇り実感することができま
す。そして、自分できものを着られるようになった喜びを実感できるのではないのでしょうか。

鍵 玄 KAGIGEN PROJECT

株式会社 **フジマサ** (慶應年間創業)
京都市下京区西洞院通仏光寺上る綾西洞院町743
tel.075-352-7678
<http://www.kagigen.jp>
ホームページからメールでお問い合わせいただけます。
弊社の製品は「はかた匠工芸」や「銀座SAMURAI」でご相談、ご購入いただけます。
フジマサは NPO法人 きものを世界遺産にするための全国会議 の活動を応援しています。

